

# 2020年度 第1回 情報交換会

2020年7月16日

(一社)日本建材・住宅設備産業協会

事務局長 橘 豊

# 本日の御説明の内容

1. 2020年度活動の内容
2. 2020年度運営体制
3. 2020年度重点課題
4. 2019年度活動実績と2020年度活動計画

# 1. 2020年度活動の内容

# 1. 2020年度活動の内容

業界の課題

建産協重点事業

成長市場の開拓

海外市場

グリーン建材等の国際標準化事業

Society5.0

IoT住宅の安全規格開発事業

リフォーム市場

リフォーム推進事業

環境制約への対応

住宅の省エネ

ZEH・断熱材の普及促進事業

健康・快適・安全なすまいづくり

建材等の品質確保

品質・環境事業

中小企業支援

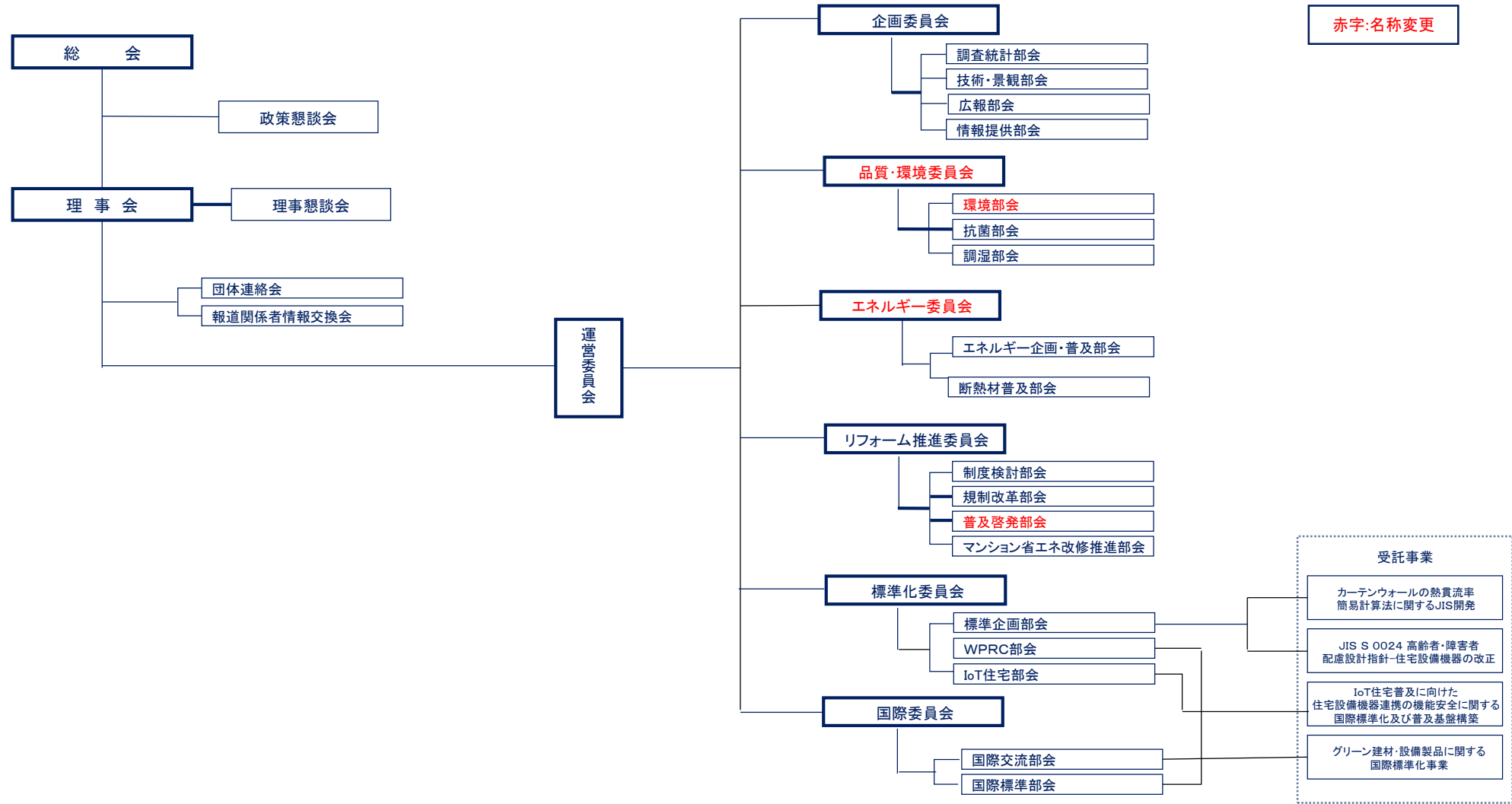
情報化・販路開拓支援

カタラボ事業

## 2. 2020年度運営体制

# 2. 2020年度運営体制

■ (一社)日本建材・住宅設備産業協会 組織図



### 3. 2020年度重点课题

## 3-① 2020年度の重点課題

### 1. グリーン建材・設備製品に関する国際標準化事業

- ・「国際標準化」を手段として、グリーン建材の海外市場を拡大
- ・①国内製品の「国際規格化」 ②日本規格の海外での「国家規格化」  
の2つアプローチを実施

### 2. IoT住宅のための新しい建材・住宅設備の安全規格の開発事業

- ・Society5.0を形成する「IoT住宅」の普及基盤を構築
- ・国内買いの先導的プロジェクトとして、住宅設備機器の連携システムの  
昨日安全に関する国際標準(IEC)を開発・普及



## 3-② 2020年度の重点課題

### 3. リフォーム推進事業

- ・リフォーム市場活性化のカギとなる政策・制度の改善、一般消費者への普及啓発

### 4. 情報提供サービス「カタラボ」

- ・建材・住宅設備のデジタルカタログサイト「カタラボ」の運営
- ・建産協の潜在的顧客層である中小企業が利用しやすい情報提供サービス事業

## 3-③ 2020年度の重点課題

### 5. ZEH・断熱材の普及促進事業

- ・ZEH普及のカギである中小工務店に対して重点的に支援
- ・優良断熱材普及のために、協会独自の取り組みとして認証事業を実施

### 6. 品質・環境事業

- ・ホルムアルデヒドやVOC発散の少ない建材、調湿・抗菌性の優れた建材の普及のために、協会独自の取り組みとして、登録・表示事業を実施

# 4. 2019年度活動実績と 2020年度活動計画

# 4-① 2019年度活動実績と2020年度活動計画

## ① グリーン建材・設備製品に関する国際標準化事業

- ◇ 「国際標準化」を手段として、省エネ・省資源型建材・住宅設備（グリーン建材）の海外市場を拡大
- ◇ ①国内製品の「国際規格化」、②日本規格（JIS等）の海外での「国家規格化」、の2つのアプローチを実施

### 【2019年度事業報告】

#### ①国内製品の「国際規格化」

- ◆ 日本提案の「高日射反射率塗料の日射率測定法」のISOが発行
- ◆ 日本再提案の「温水洗浄便座の性能評価方法」の規格案の各国調整が進展（委員会合意が間近）

#### ②日本規格の海外での「国家規格化」

- ◆ ベトナム、インドネシア中心に国家規格化を支援

### 【2020年度事業計画】

新たな3か年事業が開始（事業費大幅拡充）

#### ①国内製品の「国際規格化」

- ◆ 新規テーマを開始  
「遮熱塗料の日射吸収率測定法」、「全熱交換器24時間換気時の快適性評価方法」等

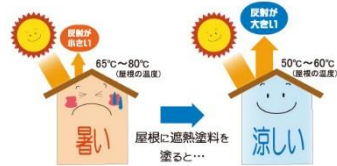
#### ②日本規格の海外での「国家規格化」

- ◆ 新規国（フィリピン、マレーシア等）へ展開
- ◆ 広く会員企業等の海外展開を支援（ワークショップ開催）

## <開発中の国際標準化のテーマ>

### ➤ 高日射反射率塗料(塗膜)の日射反射率測定方法に関する国際標準化

日本の高性能な高日射反射率塗料を海外市場へ展開・普及していくために、JIS K 5602(塗膜の日射反射率の求め方)をベースに日本から提案したISO 22969(日射反射率の求め方)が2019年7月に発行。



高日射反射率塗料の効果



高日射反射率塗料を塗装した屋根

### ➤ 温水洗浄便座の性能評価方法に関する国際標準化

日本発祥の温水洗浄便座は、欧米やアジアをはじめとした国際市場において、今後普及が拡大すると期待。その品質と性能を明らかにして使用者が必要とする製品を判断できるようにするため、性能試験方法の国際規格化を図る。



温水洗浄便座



洗浄スプレーの吐出

### ➤ 節水基準に関するISO新規提案への対応

オーストラリアから水廻り製品（シャワー、トイレ、洗濯機など）の節水基準・レベルの測定方法についてISO新規提案があり、2018年1月に新たな委員会(PC 316)が設置。日本は、性能基準と節水基準が両立する規格化を目指して協議に参画。



PC 316会議の様子



PC 316のメンバー

## <これまでの成果>

○「窓の熱性能測定法」のISO発行

○「高日射反射率塗料の日射反射率測定法」のISO発行

○「WPRC」のISO発行

WPRC：木材・プラスチック再生複合材

## <アジアでの国家規格化の取組状況>

### 【インドネシア】 JIS A 1493（日射熱測定法）を元にした国家規格



試験装置に関するアドバイス

発行されたインドネシア国家規格

### 【インドネシア】 JIS K 5675（高日射反射率塗料）に関する技術支援

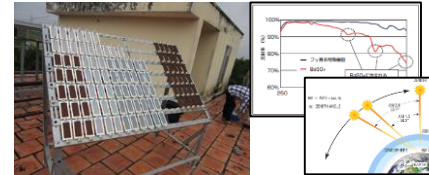


インドネシアの塗料関連市場調査



国家規格化に向けた技術委員会が発足

### 【ベトナム】 JIS K 5675（高日射反射率塗料）を国家規格に採用決定



高日射反射率塗料の耐候性試験の実施状況

2019年末に国家規格は発行予定。

### 【ベトナム】 節水及び省エネ建材のラベリング制度に関する技術支援



日本で節水関連のJIS及びBL試験実施状況を見学

節水ラベリング制度のラベル案

## <これまでの成果>

### ○インドネシア

- ・JIS A 1493（窓の熱性能測定法）ベースの国家規格が発行
- ・JIS A 5207（節水トイレ）ベースの国家規格が発行

### ○ベトナム

- ・JIS K 5675（高日射反射率塗料）ベースの国家規格が発行予定（2020年中）

## 4－② 2019年度活動実績と2020年度活動計画

### ② IoT住宅のための新しい建材・住宅設備の安全規格の開発事業

- ◇Society5.0を形成する「IoT住宅」の普及基盤を構築
- ◇国内外の先導的プロジェクトとして、住宅設備機器の連携システムの機能安全に関する国際標準(IEC)を開発・普及

#### 【2019年度事業報告】

- ◆IoT住宅版SOTIF規格の骨子案を作成

#### ※SOTIFとは

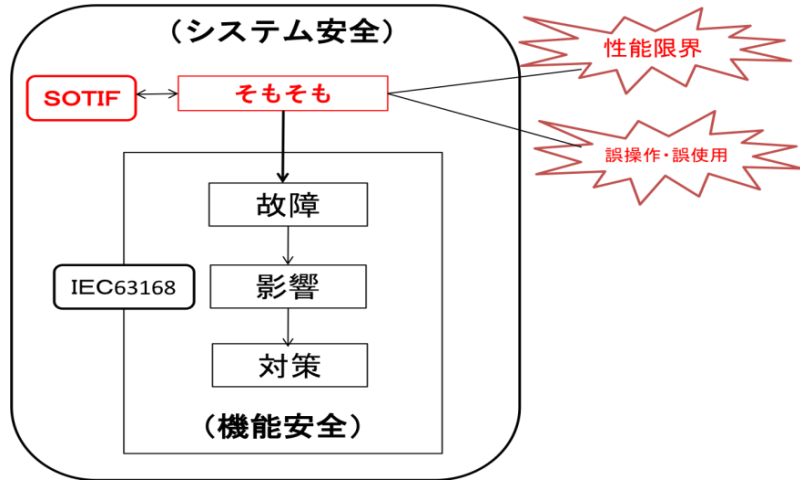
(Safety of the intended functionality)

IoT住宅を構成する住宅設備機器の連携システムにおいて、システムの性能限界や住人の誤操作・誤使用等のリスクに対する安全基準

#### 【2020年度事業計画】

- ◆IoT住宅版SOTIF規格のIEC新規提案を目指す
- ◆規格制定後の認証システム構築に向けた検討

<IoT住宅版SOTIF規格開発>



**IoT住宅で起きるハザード**

- 環境要因  
自然災害、住宅環境（間取り、構造など）
- システム（住設機器）要因  
システム故障、設計ミス → **IEC63168**

**システム性能限界**

- ユーザー要因 **NP提案（IoT住宅版「SOTIF」）**  
**誤操作、誤使用**

	<b>IoT住宅/IoT住宅設備機器</b>
要因	IoT機器の普及やAI導入による住設機器類システム高度化・複雑化
リスク原因	ユーザーの間違った使い方（設計者が意図しない使用） システムの性能限界
対策	システム性能限界やユーザーの誤操作・誤使用に対する機能安全規格を開発 <b>SOTIF (Safety of the intended functionality)</b> S O T I Fとは、システムのエラー以外の安全性のリスクを想定し安全標準とするもの (具体的には、ユーザーによる誤操作、誤使用などに対する安全標準)



## 4－③ 2019年度活動実績と2020年度活動計画

### ③リフォーム推進事業

◇リフォーム市場活性化のカギとなる政策・制度の改善、一般消費者への普及啓発

#### 【2019年度事業報告】

- ◆「住宅の燃費」の周知活動
- ◆関係省庁に対し、政策・運用改善を要望  
(一部、環境省補助金で実現)
- ◆バリアフリーリフォーム商品展示会等に  
出展
- ◆マンションリフォーム普及広報資料を改訂  
・普及

#### 【2020年度事業計画】

- ◆住宅性能評価制度について、健康・防災等  
を考慮した新たな評価基準を検討
- ◆関係省庁に対し、政策・運用改善を要望
- ◆一般消費者への普及啓発方策を検討

# <住宅の燃費>

## 住宅の一次エネルギー消費量と上下水道使用量を金額に換算して評価したもの

たとえば

### 住宅の燃費 燃費の良い車と悪い車、どちらを選びます？

住宅にも燃費があります。設備の性能は日々進化しており、最新機器は昔のものに比べて、エネルギーの消費がどんどん少なくなってきています。どうせ替えるのであれば、使われるエネルギー等が少なく済む方がお得ですね。

#### 住まいも好燃費が良いに決まってる！

高性能断熱材の施工や、最新設備へ交換するリフォームの、実施前と実施後のランニングコストを、住宅全体で算出し、住宅の燃費として比較しました。

20年前の設備 断熱性能の低い住宅 (H14基準相当)		最新の設備 断熱性能の高い住宅 (HEAT20 G1相当)	
暖房設備	54,501円	暖房設備	17,932円
冷房設備	13,016円	冷房設備	13,431円
換気設備	12,678円	換気設備	12,678円
給湯設備	72,994円	給湯設備	44,672円
照明設備	37,855円	照明設備	13,492円
その他の設備	58,761円	その他の設備	58,761円
上下水道費	35,363円	上下水道費	19,934円
<b>合計</b>	<b>285,168円/年</b>	<b>合計</b>	<b>180,900円/年</b>
燃費の悪い住宅		燃費の良い住宅	

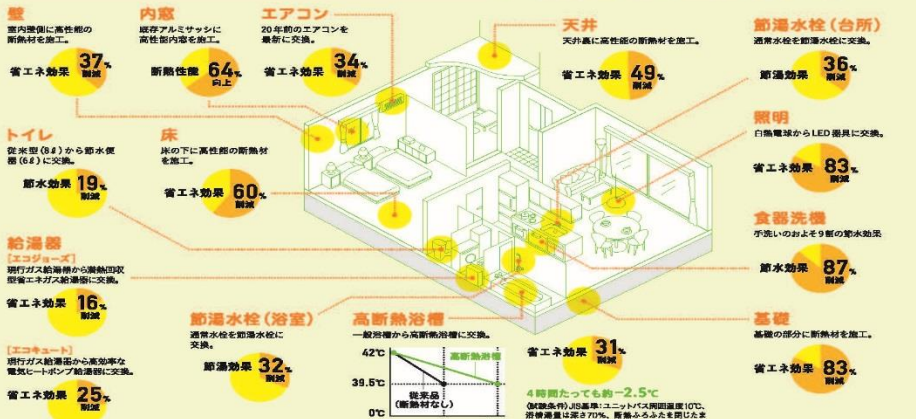
光熱水費の削減

36.6%低減

**POINT!**  
最近の設備機器は、省エネ性能や節水性能が格段にアップしており、快適性が向上し、かつランニングコストを削減することが可能になります。まだ使えるのに取り替えるのは、“もったいない”ではなく、これからは、大幅な節約ができる低燃費設備にリフォームしないことが“もったいない”時代になってきます。まとめて施工すると工費も節約可能。壊れる前にまとめてリフォームがお勧めです。

#### 定期メンテナンス時がチャンス！

住宅を取得すると必ず必要になってくるメンテナンス。例えば20年目のメンテナンスで最新設備に替えると個別設備の性能は下記のとおりとなります。



※このパンフレットに掲載したデータの計算根拠となる仕様については掲載ページのホームページで詳細をご覧ください。  
http://www.kensankyo.org/

# <マンションリフォーム普及広報資料>

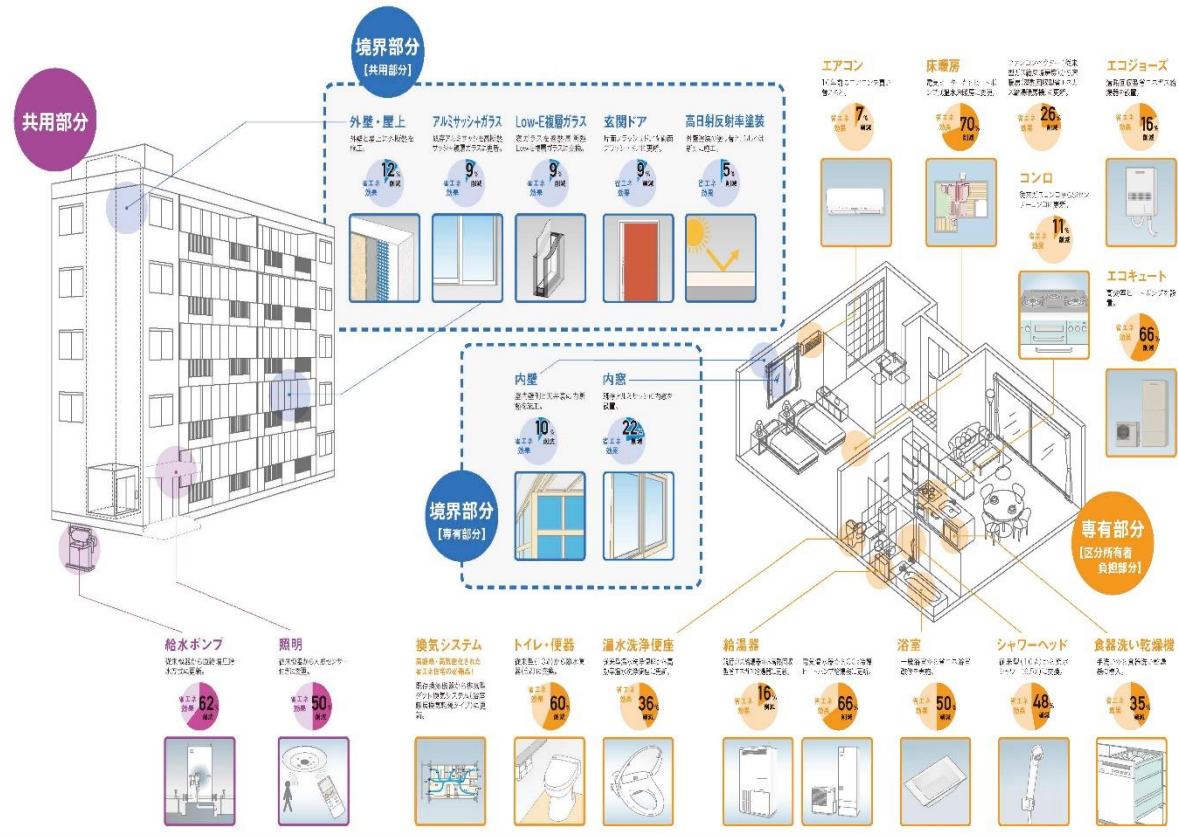
# <参考>

既存のものから、最近の省エネ建材・設備機器にスイッチすると

## こんなにお得に省エネ!

省エネ効果は抜群。コストもお得で、快適な質の高い生活を。

お使いの家電製品と同様に、経年劣化による性能低下は、築年数を重ねたマンションにも起こっています。最新の建材・設備機器は、高い省エネ効果と、性能の向上が見込まれ、質の高い暮らしをサポートします。頻繁にメンテナンスをおこなって経費をかけるよりも、快適でも経済的なエコ・マンションへリフォームしましょう。



# 4－④ 2019年度活動実績と2020年度活動計画

## ④ カタラボ事業

- ◇建材・住宅設備のデジタルカタログサイト「カタラボ」の運営
- ◇建産協の潜在的顧客層である中小企業が利用しやすい情報提供サービス事業
- ◇収益事業として、建産協の財政運営に大きく貢献

### 【2019年度事業報告】

- ◆デザイン全面リニューアル後のユーザーアンケート調査実施(結果:概ね好評)
- ◆カタラボのソフト面の改善(画面の見やすさの改善等)

### 【2020年度事業計画】

- ◆カタラボの新展開の在り方(幅広い情報提供、会員拡大方策等)を検討

<「カタラボ」とは>

「カタラボ」は、建材と住宅設備を取り扱う企業のデジタルカタログを一堂に集めた業界最大級のポータルサイト。誰でも、いつでも、簡単・自由に、無料で閲覧でき、ワンストップで商品情報を探し出すことが可能。



<「カタラボ」の利用実績>

項目	2020年3月実績	前年同月実績	対前年比(%)
総会員数(社)	315	330	95.5
掲載カタログ数(冊)	2,563	2,471	103.7
掲載ページ数(ページ)	268,571	261,366	102.8
月間総ページビュー	97,004,706	93,352,900	103.9

## 4－⑤ 2019年度活動実績と2020年度活動計画

### ⑤ ZEH、断熱材の普及促進事業

- ◇ZEH普及のカギである中小工務店に対して重点的に支援
- ◇優良断熱材普及のために、協会独自の取組として認証事業を実施

#### 【2019年度事業報告】

- ◆中小工務店向けテキスト「ZEHのつくり方」  
を改訂、各種セミナーで講演
- ◆断熱リフォーム経験者へのアンケート調査
- ◆優良断熱材認証：新規2件、更新5件  
(累計19社89製品シリーズ)

#### 【2020年度事業計画】

- ◆アンケート調査結果を踏まえた普及施策の検討

<「ZEHの作り方」> ZEH：ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス

外皮平均熱貫流率計算、一次エネルギー消費量計算の習熟を目的に、ZEH基準適合仕様例を掲載。「製品リスト」は、その仕様例に即した同協会員メーカーの推奨製品リスト。



<優良断熱材認証制度（EI制度）>

製造販売する事業者が認証された製品に性能表示マークを表示し、その中で熱性能を熱抵抗値(R値)等を数字で表現するため、消費者が同じ尺度で異なる種類や事業者の断熱材の性能を比較できる制度。また、省エネルギー基準義務化に向けて、JISと並ぶ第三者認証制度であるため安心して製品を選択できる制度として期待。



# 4—⑥ 2019年度活動実績と2020年度活動計画

## ⑥ 品質・環境事業

◇ホルムアルデヒドやVOC発散の少ない建材、調湿性・抗菌性の優れた建材の普及のために、協会独自の取組として、登録・表示事業を実施

### 【2019年度事業報告】

◆厚労省キシレン指針値改定に伴い、ガイドライン等改訂、  
新登録制度に移行

#### ◆登録実績

○ホルムアルデヒド:新規60件、変更59件  
(累計145社1549件)

○4VOC:新規7件、変更71件、移行62件  
(累計48社969件)

○抗菌製品:新規8件、変更3件  
(累計6社61件)

○調湿建材:新規1件、追加1件、変更2件  
(累計17社30件)

### 【2020年度事業計画】

◆環境問題への取組を追加

<ホルムアルデヒド発散等級自主表示制度>

平成15年7月1日施行の改正建築基準法に対応し、化粧板等のホルムアルデヒド発散等級を自主表示する制度。

<化粧板等からのVOC放散に関する自主表示>

化粧板等からのトルエン・キシレン・エチルベンゼン・スチレンの放散に関する自主表示制度。

<調湿建材登録・表示制度>

「調湿建材」に客観的な評価を行い、一定以上の性能を有する製品に「調湿建材認定マーク」を表示する制度。



調湿建材  
(一社)日本建材・住宅設備産業協会

<抗菌性能基準使用登録制度>

経済産業省のガイドラインに沿って、JISZ2801準拠の抗菌性試験方法（持続性・安全性含む）及び表示の当協会統一基準が、正しく運用されるよう審査、登録する制度。



## kkj お勧め建材ガイドシリーズ 第五弾

# 『H28年省エネ基準を満たすためのお勧め建材ガイド ＜外皮 1・2 地域編 目標 $U_A$ 0.46/0.40/0.30＞』を発行

- 住宅の省エネ性能の説明義務化を見据え、H28年省エネ基準を満たす断熱材・開口部等の組合せを紹介
- 1・2地域における充填断熱工法、外張断熱工法および付加断熱工法について、具体的な環境共生住宅推奨部品を提案

一般社団法人 環境共生住宅推進協議会（会長：竹中宣雄）は、建築物省エネ法の改正により、建築士から建築主に対する省エネ基準への適否の説明が義務付けられる等を踏まえ、『H28年省エネ基準を満たすためのお勧め建材ガイド＜外皮 1・2 地域編＞』を発行いたします。

一般社団法人 環境共生住宅推進協議会（以下、kkj）は、環境共生住宅を構成する建材や設備の環境性能について独自の推奨基準を定め、これに適合する建材や設備を「環境共生住宅推奨部品」として推奨し、環境共生住宅の普及推進を進めてきました。

この度kkjは、外皮の断熱等性能に関する平成28年省エネルギー基準を満たすことができる環境共生住宅推奨部品の組合せをご紹介します。冊子「お勧め建材ガイドシリーズ」の第五弾を発行しました。本冊子では、1地域と2地域について充填断熱工法と外張断熱工法、付加断熱工法を対象に3つの断熱等性能の水準を実現する組合せを提案しています。

3つの水準は、H28年省エネ基準をクリアしたい人にお勧めする「レベルⅠ」（ $U_A$  0.46）、ZEHレベルを目指したい人にお勧めする「レベルⅢ」（ $U_A$  0.40）、ランクアップ外皮性能を目指したい人にお勧めする「レベルⅣ」（ $U_A$  0.30）としています\*。それぞれのレベルに応じた具体的な環境共生住宅推奨部品の組合せを、部品の種類と仕様まで具体的に掲載していますので、そのまま実際の設計業務にお役立ていただけます。

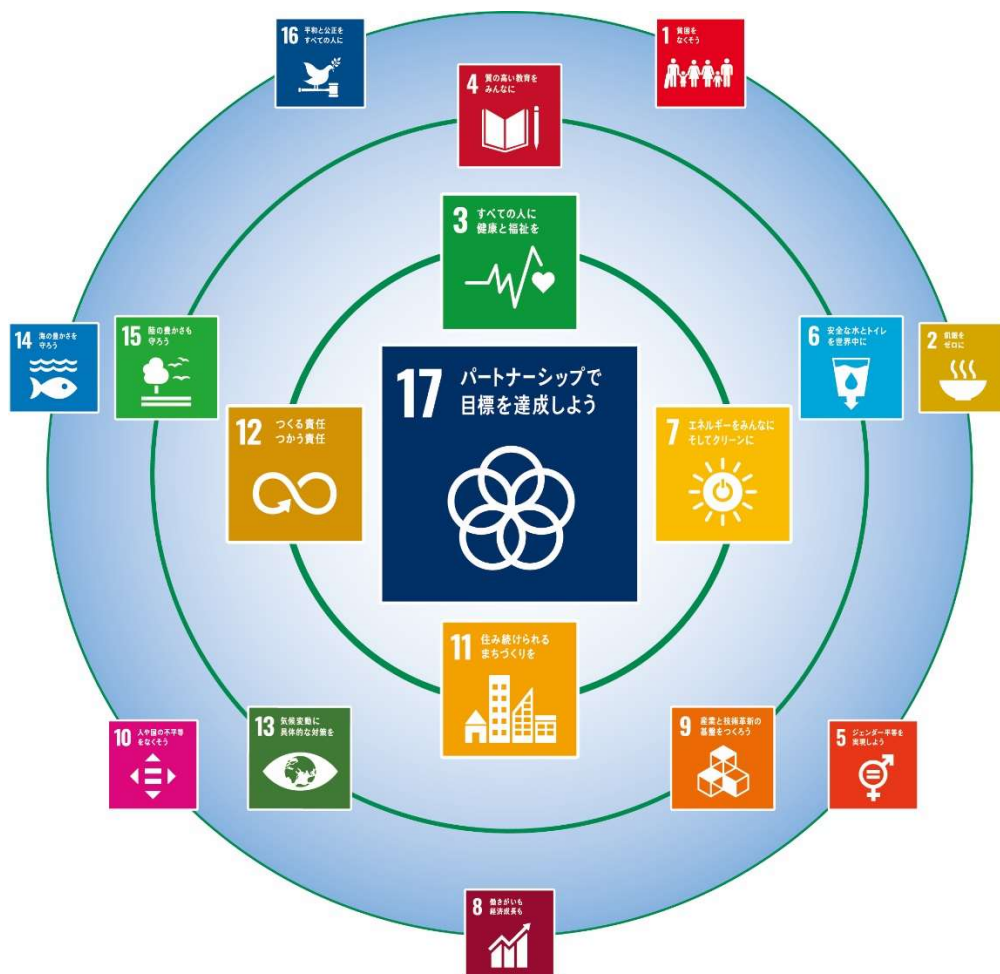
kkjでは皆様の省エネルギー性能の高い住宅設計の一助となるよう、今後も「お勧め建材ガイド」を充実してまいります。

\*1・2地域ではレベルⅠとレベルⅢの性能が近いいため、レベルⅡは設定していません。

\*レベルⅣ ( $U_A$  0.30) は北方型住宅2020にも対応したレベルです。



## 創設 30 周年を記念して kkj 版『SDGs パンフレット』を発行



### kkj が捉える SDGs の各ゴール

現時点で貢献度が高くこれからも積極的に取り組むゴールほど大きく、中心に近い位置に配置しています。

- 創設 30 年目の取り組みとして、SDGs（持続可能な開発目標）への対応を整理
- これまでの活動は日本の住まいとまちづくりに関する SDGs の実践・普及に貢献
- 様々な業種から構成される協議会ならではの長を活かした SDGs マッピング
- 協議会スローガンに SDGs の取り組み姿勢を明記し、持続可能な社会の実現を目指す

一般社団法人 環境共生住宅推進協議会（会長：竹中宣雄）は、2015年9月、国連サミットにおいて採択された2030年までの国際目標「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標、略称SDGs）」との関連について整理したパンフレットを創設30周年の記念として発行いたします。

一般社団法人 環境共生住宅推進協議会（以下、kkj）の原点は、1992年のリオ「地球サミット」を見据え、建設省住宅局（当時）が自治体、専門家、研究者、建築家、関連業界等を束ね、1990年に創設された環境共生住宅研究会です。1992年に同研究会は、地球環境の保全、周辺環境との親和性、居住環境の健康・快適性を総合的に実現する住まい・まちづくりを目指し「環境共生住宅」を提唱しました。1994年には民間組織を主体として研究会の成果を継承する環境共生住宅推進会議に、1997年には環境共生住宅の普及を一層推進するため環境共生住宅推進協議会に、2009年には多方面の活動に対応するため一般社団法人化するなど時代のニーズに応じた組織の変遷を辿ってきました。

その間、環境共生住宅の事例検証、設計者もしくは住まい手にとって有益な情報を掲載した出版物の発行、各種設計支援ツールの開発・公開、関連分野で活躍されている方々の講演会や環境に配慮された建築物やまちなみ整理の見学会の開催など、全国レベルの活動を活発に継続しています。これらkkjが継続してきた取り組みは、日本の住まいとまちづくりに関するSDGsの持続的実践・普及に貢献しているものと考えます。

SDGsは2030年までに実行・達成すべき事項をした世界共通の目標です。本年、創設30周年を迎えるにあたり、環境共生住宅の要件やkkjがこれまで行ってきた活動とSDGsとの対応関係を整理し、これから先10年間の方向性や貢献できる分野について検討しました。

kkjは、住宅会社、建設会社、不動産、建材設備会社、エネルギー供給会社、公共団体、各種コンサルタントなど様々な業種から構成される団体です。こうしたkkjならではの長を活かし、SDGsのあらゆる目標に対して幅広い視点で貢献できる可能性を踏まえると、17の目標のうち「パートナーシップで目標を達成しよう」が最も大切にすべきものと考えます。この度のパンフレット作成を契機に、アソシエーションスローガンも改訂し、パートナーシップを大切にしながらSDGsのさまざまな目標に取り組む姿勢を明確にしました。

kkjは、これからもSDGsを基盤とした協議会活動を継続し、会員との連携をより一層図りながら、できるだけ幅広い分野で持続可能な社会の実現に貢献していく考えです。

## ■アソシエーションスローガン（令和2年5月改訂、下線部を追加）

私たち環境共生住宅推進協議会は、  
地球環境を保全し、周辺環境と親和しながら、健康で快適に生活できる  
「住まい・まち・暮らしの環境共生」という理念のもと、  
四季折々の住まい方をふまえて心豊かな環境共生社会づくりに貢献します。  
幅広い業種の会員とのパートナーシップを大切にしながら  
SDGsのさまざまな目標に取り組み、持続可能な社会の実現を目指します。

## ■パンフレット概要

- ・名称：kkj版「SDGsパンフレット」
- ・体裁：A4判 4ページ（表紙、裏表紙含む）
- ・配布先：kkj会員、取引先、官公庁など
- ・公開：WEBサイトにPDF版を掲載（公開日：令和2年6月9日）

掲載URL：<https://www.kkj.or.jp/contents/introduce/dl/kkj-sdgs.pdf>



以上

【この件に関するお問い合わせ先】

一般社団法人 環境共生住宅推進協議会 (kkj)

事務局：中田

Tel：03-6265-3242 Fax：03-6265-3243

E-mail：jimukyoku@kkj.or.jp